

人間形成教育

国際性から地域性、自然科学から社会科学、人文科学まで「知力」「人間力」「対応力」の土台をつくる幅広い学び

人間形成教育は、環境視点と経営視点を備えた「知力」と、英語でのコミュニケーションや地域の人々とのふれあいを通じた実践的な「人間力」養成のための学びです。人間形成科目は、「総合教育科目」「キャリアデザイン科目」「情報処理科目」「外国語科目」の4つの科目群と、「プロジェクト研究」という学内外をフィールドに行われる総合演習科目で構成されています。これらの科目により企業や地域のリーダーとして活躍するための土台を築きます。



人間形成教育4つの科目群とプロジェクト研究



総合教育科目

確かな知力の土台となる基礎学力に加え、環境と経営2つの視点を修得
自然科学、社会科学、人文科学を学び、教養をより豊かにします。さらに、「相互履修」制度により、環境と経営の学部の垣根を越えて学修することができます。

〈授業科目〉

鳥取学、文章作成1・2、
数理基礎、地理学入門、
SDGs基礎、環境学概論など

〈相互履修科目〉

自然環境保全概論、
循環型社会形成概論、
経営学入門、現代経済学入門など



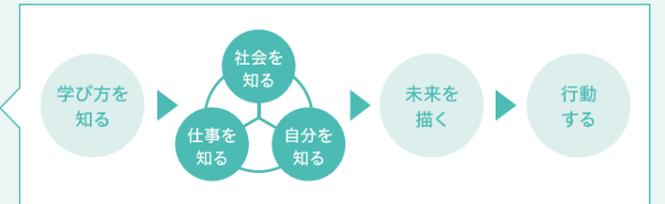
キャリアデザイン科目

与えられた4年間を
どう過ごすかで将来に差がつく

イメージを形にするのは難しいもの。大学生生活や研究、就職活動も同様です。それらをよりよい形でどう具現化するか、考え方と行動の仕方を学びます。

〈授業科目〉

キャリアデザインA・B、
基礎インターンシップ



情報処理科目

「しびといユーザー」を目指してパソコンを使いこなそう

今や必需品となったパソコン。これを有効に使うか使わないかで、4年間の大学生活が変わってきます。パソコンを使いこなす力を身に付けます。

〈授業科目〉

情報リテラシ1・2



外国語科目

45分授業を週2回実施。集中して学修し、
英語(会話)能力を向上

10年後、20年後は今まで以上に国際交流が盛んになり、外国語(特に英語)によるコミュニケーション能力が求められます。そこで、英語(特に会話)能力のさらなる向上を目指し、週2回45分授業を行うことで集中して継続的に学びます。

〈授業科目〉

Intensive English1~8、中国語1・2、韓国語1・2、ロシア語1・2、
海外英語研修A~C、英語特別講義A~D、基礎英語能力養成A・Bなど

	通常の授業	Intensive English
週	90分	45分
週	90分	45分



第二外国語

本学はロシア、中国、韓国の大学と交流しており、この3か国語を第二外国語の選択科目としています。

英語村を設置

外国人スタッフとクイズや料理などのアクティビティを通して、基礎的な英会話スキルとコミュニケーション能力を修得します。



プロジェクト研究

様々なふれあい、学び合いを通して自分で考え、自ら行動する力を養成

プロジェクト研究1~4では、学生が自分の頭で考え、他者と協働しながら行動することを重視し、大学で学修していくために必要となる能力を養うことを目指します。筋道を立てて考える「思考力」、複数の異なる考え方から結論を得る「判断力」、自らの考えを他人に伝える「表現力」の3つの力を育て、「自分の意見を持ちつつ多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」を育むことを目指した授業を行います。プロジェクト研究1~4までを履修することにより、学問を行う基礎力を段階的に養います。

〈プロジェクト研究で用いられる指導方法〉

- 問題発見学修
- 問題解決学修
- 体験学修
- 調査学修



▶▶▶ プロジェクト研究の詳細は、34ページをご参照ください。

総合教育科目

環境と経営の視点を持てるよう、環境学部は経営学部、経営学部は環境学部の専門科目を相互履修可能にしています。また、教養あふれる知力を身に付けられるように自然科学、社会科学、人文科学の科目を用意しています。

プロジェクト研究

「思考力・判断力・表現力」を育て、「自分の意見を作りつつ多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」を育むことを目指します。

確かな土台をつくる人間形成教育

キャリアデザイン科目

大学生としての心構えを知り、社会に出るための準備をします。卒業後の自分の姿をイメージしながら大学で学ぶ方向性を明確にします。

外国語科目

世界の共通言語である英語の能力(特に会話能力)の向上を図ります。また、海外の大学との交流・留学などを通じ、幅広い知見、豊かな発想力を育成します。英語に加え、ロシア語、中国語、韓国語を学修する機会も設けています。

情報処理科目

全学生がノートパソコンを所有し、研究や実社会で役立つ実践的な情報処理能力を身に付けます。



人間形成教育センター長

いま まさ かず

今井 正和 教授

【専門】 情報の収集と蓄積、可視化

豊かな「教養」で人間の幹を太くして、人生を楽しめる人間になろう

卒業してから新しい学問を一から学ぶことはよくあることです。それでも私たちが前進して行けるのは「教養」があるからです。本学では、その教養の土台となり、各々の専門性を深める力となるように4つの科目群と総合演習を設定しています。また、自分が所属する学部の学問分野だけではなく、在学中に幅広い分野の基礎を身に付けられる副専攻制度も設定しています。本学で素晴らしい人生の一步を踏み出しましょう。



特別 サイト



人間形成教育センター副センター長

あらか てつじ 荒田 鉄二 教授

【専門】 環境哲学、文明論、持続性論

自分の人生を自分で決めるという観点からすると、その中で自分が生きる世界がどのようなものであるのかを知っていることが大切でしょう。幅広く人間形成科目を学ぶことを通じて、大まかではあるにしても現代社会の全体像を示す、いわば「地図」を身に付けましょう。



人間形成教育センター副センター長

よしだ さとる 吉田 聡 教授

【専門】 教理論理学

私は数学的定理に対する証明の論理に注目し、コンピュータによる実行の仕方を明らかにする証明(構成的証明)を考察しています。学生の皆さんと、社会とコンピュータ、そしてその背景にある教理について学んでいきたいと思っています。



地域イノベーション研究センター長・人間形成教育センター副センター長

よしなが いくお 吉永 郁生 教授

【専門】 海洋微生物学、微生物生態学

大学では知識を自由自在に運用することを学びます。現代の環境学や経営学が直面する課題には必ずしも定式がありません。我々は1つ1つの課題に、広範な知識を総合的に運用することで答えを導き出します。まずは身の回りの小さな出来事に注意を払うことから始めてみてください。



さかもと しゅういち 坂本 修一 非常勤特任教授

【専門】 国語教育、学校経営

大学に行くのは「海を見る自由」を得るためなのではないか、と言った人がいます。つまり、自由な時間を得るためではないか、ということです。中学・高校時代にはなかった、時間を制御する自由を存分に味わってください。大学卒業後にその自由はないかもしれません。



ベゴール ベッティナ BEGOLE, Bettina 教授

【専門】 英語教育、翻訳学、リテラシー

In addition to Intensive English, we also have advanced level classes. I teach the Applied Writing class, and the Advanced English classes. My English field is literacy, both reading and writing.



いわた なおき 岩田 直樹 特任教授

【専門】 数学教育、教育学

江戸時代と明治時代を生きた福沢諭吉は「一身にして二生を經るが如し」という印象的な言葉を遺しています。人生100年時代、皆さんは「二生」どころか「三生」、「四生」を歩んでいくと思います。変化を愉しむ心、変化に対応できる人間力を培ってください。



とくやま みずみ 徳山 瑞文 教授

【専門】 英語教育

"There are so many different varieties of English that there is really no such thing as 'English' --- there is only 'Englishes'." Please enjoy communication with more people around the world in your 'English', no need to worry about your mistakes.



なかむら ひろこ 中村 弘子 准教授

【専門】 英語教育、応用言語学

Intensive Englishでは、基本的に英語で授業を行い、4技能の向上を目指します。英語村とも連携して、様々な文化的背景を持つ教員やスタッフとコミュニケーションを取ることで異文化理解を深め、国際共通語としての英語の実践力を高めます。



バンヴィル ショーン BANVILLE, Sean 准教授

【専門】 英語教育、英語言語

Hello everybody, Welcome to Intensive English. I am the Speaking and Listening coordinator. I look forward to meeting you. Your English classes will help you to practice your communication skills. Please remember that English is important for your future job. I will be very happy to answer your questions.



いちまる なつき 市丸 夏樹 准教授

【専門】 自然言語処理、計算言語学

今日では、インターネットを通じて世界中の人々とのコミュニケーションが可能になっています。情報リテラシー科目では、コンピュータの操作から、サイバーセキュリティまで、現代のネット社会での生活に欠かせない実践的な知識と技能を身に付けます。



サステナビリティ研究所副所長 ほり まい や 堀 磨伊也 准教授

【専門】 パターン認識・機械学習

近年、ビッグデータが容易に取得できるようになり、人工知能は日常生活において活用されています。ここで必要となる数理的思考やデータ分析・活用能力を磨き、社会における様々な問題を解決し、データから新たな価値を生み出す能力を身に付けます。



くぼ すずむ 久保 奨 准教授

【専門】 オペレーションズ・リサーチ、応用数学、統計学

データを活用したビジネスや政策立案が求められており、データを収集・処理・分析する力が重要になっています。データや数理を使って、様々な問題・課題の解決に向けて、一緒に考えていきましょう。



こすぎ たかひろ 小杉 卓裕 講師

【専門】 偏微分方程式論

大学入学は人生のゴールではありません。大学はこれから先待ち受ける困難に対応するための深い教養・広い知見・物事の学び方を身に付けられる場所です。ただし、自分から行動しないとけません。大学入学後も学ぶ気持ちを忘れないでください。



モウア ジェニファー MOUA, Jennifer 特任講師

【専門】 英語教育、国際文化学

It is such a joy to be a part of the Intensive English Program. You will create wonderful connections with your classmates and your teacher. I am here to help you and make sure you will learn and enjoy your English classes. English is a widely-spoken global language and I want you to be a part of it. I believe in you, I'm listening to you, and know that your future starts from here.

プロジェクト研究

答えのない問題に積極的に取り組み、自分の頭で考え他者と協働しながら行動する力を身に付けよう

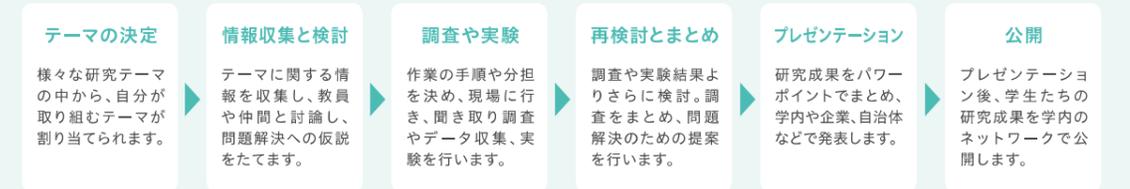
プロジェクト研究では、1・2年次の半期ごとに計4回、毎回異なったテーマ、メンバーで研究を行います。学生が自分の頭で考え、他者と協働しながら行動することを重視し、「思考力・判断力・表現力」を育て、「自分の意見を作りつつ多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」を育むことを目指します。本学独自の特色ある科目です。



1 6つの要素を鍛える(プロジェクト研究1~4/1・2年次)

- 思考力** 筋道を立てて考える力
- 判断力** 複数の異なる考えから結論を得る力
- 表現力** 自らの考えを他人に伝える力
- 主体性** 自分の意見を作る力
- 多様性** 異なる立場や意見を適確に理解する力
- 協働性** 様々な人々とともに目的を達成しようとする力

2 プロジェクト研究の流れ



3 プロジェクト研究テーマ例(※2022年度の実施内容)

- IoTによる大山隠岐国立公園の療養効果定量化プロジェクト
- 森林空間の利用を考える ~キャンプ場、遊歩道等による森林サービス産業化に向けて~
- どうする?ローカル鉄道
- 宇宙から見る地球の変化と環境問題
- 環境大学ノベルティの開発
- 鳥取の街なかを調査し、ドキュメンタリー映像を作成する
- まちの「居場所」を考える
- 景観写真から地域社会を考える
- 公立鳥取環境大学のキャンパスデザインを提案しよう
- 鳥取県を対象とした福祉のまちづくりについて考える

在学生メッセージ



高村 ゆず子さん (沖縄県出身)

学生の視点を大切にキャンパスデザインを提案

大学のキャンパスデザインを提案するプロジェクト研究に取り組みました。学生の視点を大切にして、「雨除けの遊歩道を作ろう」、「グランピングテントを設けよう」、「四季が見える植物を植えよう」という3つを提案。学部も学年も超えた混成チームで、それぞれの視点から活発に意見交換を行いました。その中でそれぞれが得意分野を活かして一つのことを成し遂げるという、今の時代に必要なチームワークを学ぶことができました。

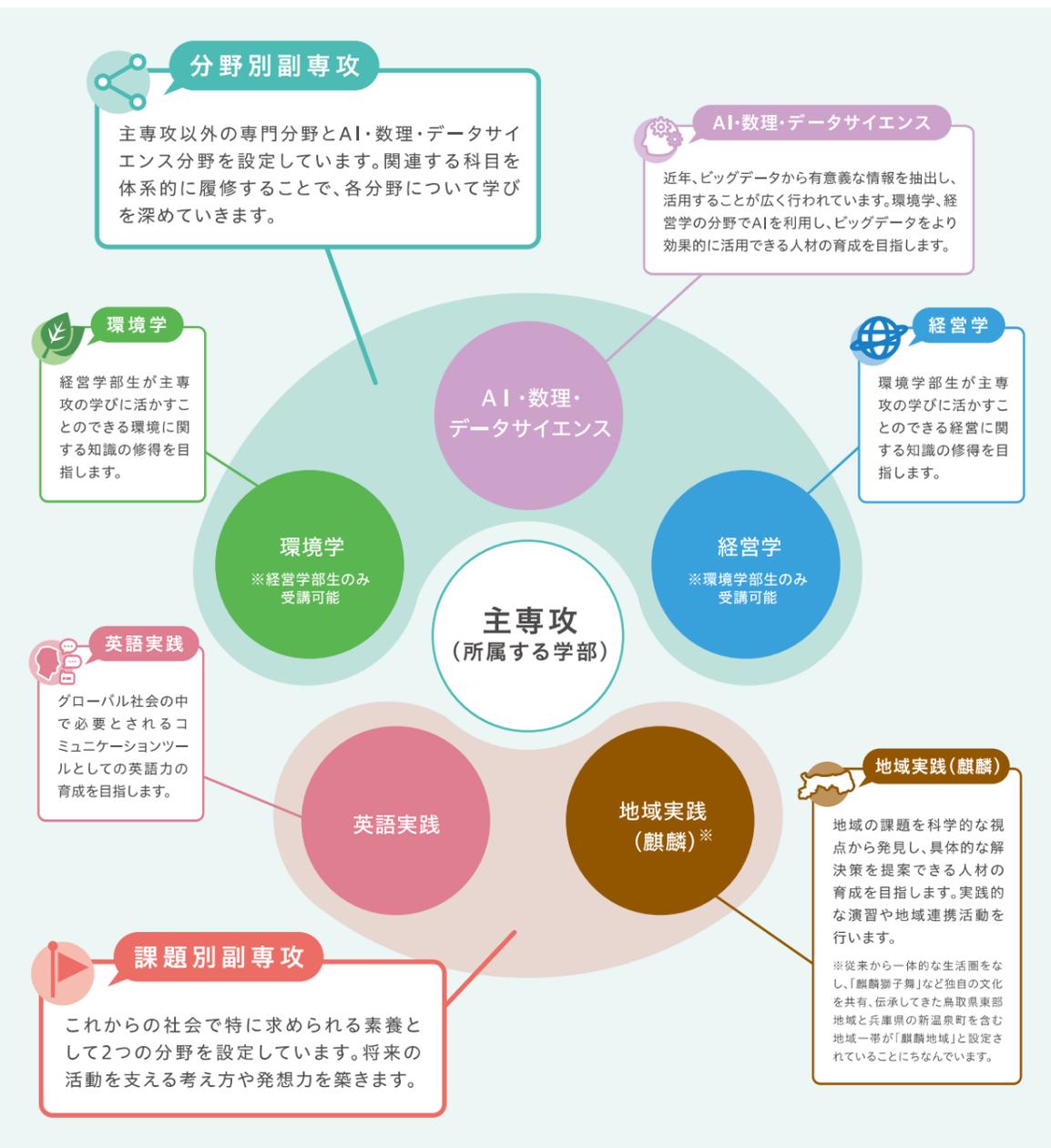


特別 サイト

副専攻制度

複数の専門性を身に付けた
社会から求められる人材になる

これからの社会では、多角的な視点を持ち、応用・境界領域に強い人材が求められます。本学では副専攻制度を採用しており、「環境学」「経営学」の他に、必要な情報を活用する力を育成する「AI・数理・データサイエンス」、国際社会で必要となる英語力を育成する「英語実践」、鳥取に密着し在来知を学ぶ「地域実践」といった5つの分野を体系的に学べます。主専攻とは別に、興味のある分野を学び、境界を超えた発想力を養います。



AI・数理・データサイエンス教育研究センター

〈設置の目的〉

AI・数理・データサイエンスの教育及び研究を行い、時代が求める人材の育成、社会への貢献に寄与することを目的として、2023年4月に設置しました。



センター長
さいとう てつ
齊藤 哲 教授

データによる洞察、鋭い感性、自由な発想で 社会課題の解決と新たな価値創造へ

AI・数理・データサイエンスは、デジタル社会といわれる現代において、社会や企業に最も必要とされる分野のひとつです。本学が掲げるSDGsなどの「持続可能な社会の構築」には、高齢化・所得格差といった地域問題や廃棄物処理・カーボンニュートラルといった環境問題など、解決すべき複雑で多様な社会課題が数多く存在します。これらの社会課題の解決に向け、社会に存在する多種多様なデータの関係を読み解くデータ分析・利活用能力がますます重要になってきています。AI・数理・データサイエンス教育研究センターでは、(1)機械学習などのAI技術、(2)数理・統計学や情報学に関する知識、(3)ビッグデータなど多様なデータを収集・分析する技能の教育・研究を行います。また、地元の企業や行政機関との連携によって、実際にある社会課題を学生とともに洞察します。そうした経験によって、課題に対する鋭い感性と解決に向けた自由な発想を身につけ、さらにはデータに基づく合理的な意思決定で、新たな価値を創造する人材の育成を目指します。

Profile

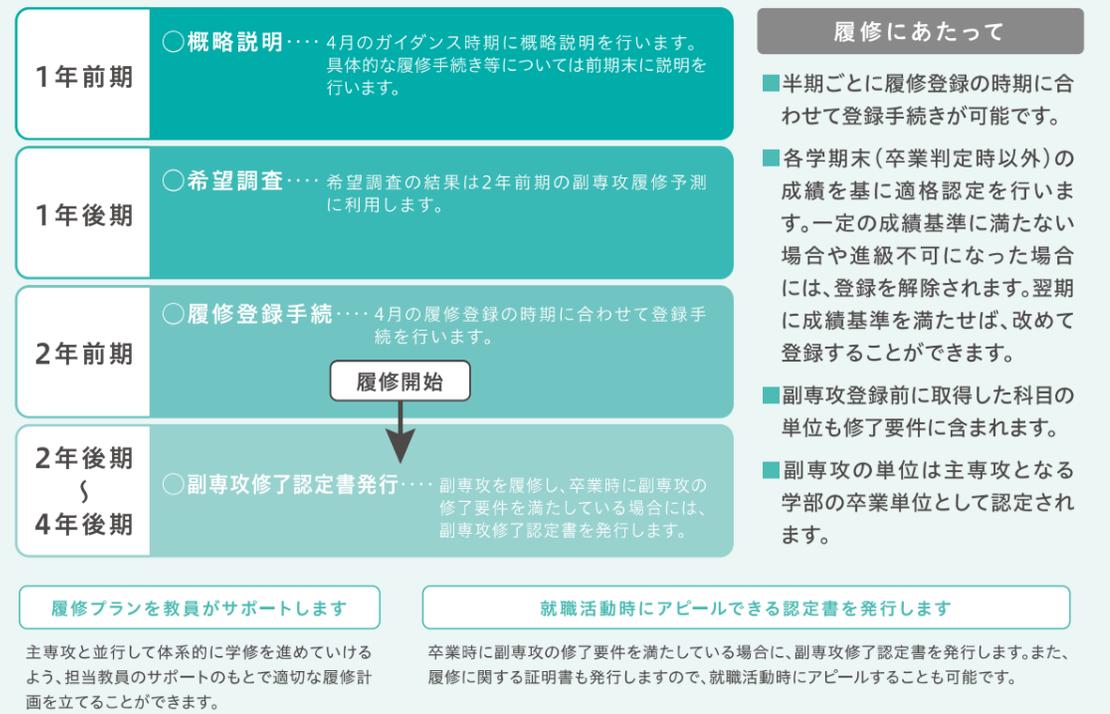
慶應義塾大学商学部を卒業後、1981年(株)日立製作所にシステムエンジニアとして入社。製造業・流通業を中心に、数多くのITを活用した業務改革プロジェクトを主導した。2015年より(株)日立産業制御ソリューションズ。AI&ビッグデータソリューションセンターを設立するなど、データ活用によるソリューション事業を推進、データサイエンティストなどの人材育成にも尽力した。(～2021年3月)。2018年3月早稲田大学創理工学研究所経営デザイン専攻博士課程修了、博士(経営工学)取得。2021年4月公立鳥取環境大学経営学部教授、2023年4月公立鳥取環境大学AI・数理・データサイエンス教育研究センター長に就任。著書に「AI, IoTを成功に導くデータ前処理の極意」(日経BP社)がある。

AI・数理・データサイエンス教育プログラムについて

AI・数理・データサイエンスは、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」と呼ばれ、大学生の誰もが持つべき基礎的なものと捉えられています。本学ではこれらを体系的に学ぶために、レベルに応じて「リテラシー」と「応用基礎」の2つの教育プログラムを2023年度から開始しました。本教育プログラムでは今後のデジタル社会に必要な不可欠なAI・数理・データサイエンスに関わる様々な科目(講義、演習、実習)を提供しています。



副専攻の履修の流れ



分野別副専攻

環境学 ※経営学部生のみ受講可能

経営学部生を対象に、主専攻と並行して環境と人間の関係や環境に関する法令などの基礎的な理解を深め、環境問題の全体像を把握し、主専攻に活かすことのできる知識を身に付けることを目標とします。学部共通科目に加え、自然環境保全、循環型社会形成、人間環境の各分野の専門科目の一部を学ぶことで、環境学の中核的な内容を学ぶことができます。



科目一覧

科目名	1年次	2年次	3年次
学部共通科目	●自然環境保全概論 ●人間環境概論 ●循環型社会形成概論 ○環境と文明	○人間居住論 ○環境情報学概論 ○環境行政論 ○環境と倫理 ○環境法概論 ○環境政策論	○環境アセスメント概論
自然環境保全系科目		○生態学基礎 ○気象学概論 ○海洋環境学 ○森林科学概論	○保全生物学 ○基礎土壌学
循環型社会形成系科目	○廃棄物学入門	○環境とエネルギー ○応用微生物学概論 ○水環境工学1	○大気汚染防止 ○廃棄物処理技術
人間環境系科目			○景観計画と保全管理 ○地域生活文化論 ○都市の持続的発展 ○エコハウス計画 ○途上国の都市発展 ○木質構造計画 ○ジオパークと地域づくり

◎…必修 ●…選択必修 ○…選択 ※科目は変更になる可能性があります。

経営学 ※環境学部生のみ受講可能

環境学部生を対象に、主専攻と並行して企業などの組織や地域における経営の様々な課題に挑戦し、その解決について具体的に提案・実行するための基礎力を身に付けることを目標とします。経営学の初学者が体系的に学ぶ基盤となる内容を経営学部の学生と同等の水準で学ぶことができます。



科目一覧

科目名	1年次	2年次	3年次
学部基礎科目	◎経営学入門 ○経営戦略論1 ◎会計学入門 ◎商業簿記1 ○現代経済学入門 ○ミクロ経済学 ○統計学入門	○経営組織論1 ○管理会計 ○マーケティング1 ○ファイナンス入門 ○商業簿記2 ○マクロ経済学 ○財務会計 ○金融論	

◎…必修 ●…選択必修 ○…選択 ※科目は変更になる可能性があります。

AI・数理・データサイエンス

主専攻の知識に加え、昨今の社会で要請されているAI(人工知能)、数理科学、データサイエンスについての基礎的な知識も備えた人材の育成を目標とします。AI技術とデータサイエンスを理解することで、それぞれの主専攻の分野で膨大なデータをより有効かつ効率的に活用できる能力を養い、さらに基盤となる数理を理解することで、新たな技法および技術を自分の力で修得していく能力も養います。カリキュラムは、AI・数理・データサイエンスの基礎を学ぶために効果的な科目を編成しています。



科目一覧

科目名	1年次	2年次	3年次
基礎科目	◎微積分学 ◎線形代数学 ○数理基礎 ◎プログラミング ◎統計学入門	○離散数学 ○インターネット ◎データサイエンス ○計算機の基礎 ◎データ構造とアルゴリズム	◎AI
展開科目		○データサイエンス実践演習 ○経営情報論 ○環境情報学概論 ○AMD実践実習A・B	○AI実践演習 ○データベース ○画像処理 ○環境データベース論 ○パターン認識 ◎情報倫理 ○地球観測学

◎…必修 ●…選択必修 ○…選択 ※科目は変更になる可能性があります。

課題別副専攻

英語実践

英語運用能力を高め、様々な話題について複雑な文章の主要な内容を理解し、国際共通語として英語を用いる人々と不自由なくコミュニケーションができ、幅広いテーマについて明確で詳細な文章を作成できるようになることを最終的な目標とします。英語運用能力を養成する英語応用科目、英語発展科目、実際に英語が使えることを確認・実感する英語実践科目があり、段階的に英語力向上を目指します。また、英語力を客観的に証明する外部資格試験に向けた学修支援科目もあります。



科目一覧

科目名	1年次	2年次	3年次
英語応用科目		○Advanced English 1~4	
英語発展科目		○Advanced English 5~8	
英語実践科目	○英語活動A・B ○海外語学実習A・B ○海外英語研修A~C	○Case Analysis	○英語特別講義A~D
学習支援科目	○基礎英語能力養成A・B ○応用英語能力養成A・B		

◎…必修 ●…選択必修 ○…選択 ※科目は変更になる可能性があります。

地域実践(麒麟)

地域独自の「在来知」を深く学び、体験する中で課題を発見し、大学で学ぶ普遍的な「専門知」をうまく運用し、地域社会の現実的な課題に実践的に対処する力を身に付けます。また、「主体性」や「判断力」、他者を受け入れ問題解決に導く「多様性」や「表現力」、「協働性」なども身に付けるために、演習や地域連携活動などを行い、地域の課題に積極的に関わるリーダーシップを持つ人材育成を目標とします。麒麟基礎科目、演習科目、地域志向科目の3つの科目があります。



科目一覧

科目名	1年次	2年次	3年次
基礎科目	◎鳥取学 ◎プロジェクト研究		◎麒麟の知
演習科目	○基礎インターンシップ ○特別演習A~C	○鳥取グリーンベンチャー	○ワークショップ
地域志向科目		○生態学概論 ○自然環境と文化 ○3R工学 ○都市居住計画	○環境データベース論 ○地域エネルギーシステム論 ○漁業資源保全学 ○都市の自然環境形成 ○保全生物学 ○農村の持続的発展 ○森林政策論 ○歴史遺産保全論 ○バイオマス変換論
		○地域経済論 ○地域経営論 ○公共経営論 ○流通論 ○社会調査法	○地域政策論 ○コミュニティビジネス論 ○地域産業論 ○観光経営論 ○公共政策論 ○地域振興論 ○中小企業経営論 ○農業経営論 ○地域マーケティング ○経営学特別講義B ○非営利組織論

◎…必修 ●…選択必修 ○…選択 ※科目は変更になる可能性があります。



副専攻についての動画をチェック!

「副専攻制度」について、学びの特徴や学修スタイル、カリキュラムについて動画で紹介しています。主専攻の学びを補完するとともに、視野を広げ、柔軟な発想力の向上にも貢献します。

公式 YouTube チャンネル



学びの特色

学びの特色

国際交流

留学経験は人間性を豊かにし
実践的な語学力の修得は可能性を広げます

1 多文化交流空間「英語村」

実践的な英会話を楽しく学べる疑似英語圏体験空間

本学には楽しく自然に英会話スキルとコミュニケーション能力を身に付けられる「英語村」があります。外国人スタッフと英語で会話を楽しむチャットのほか、料理やゲームなどのアクティビティや季節のイベントも開催しています。スタッフの国籍は様々で、英語だけでなく世界各国の文化にも触れることができます。



2 学生交流プログラム

本学はロシア、中国、韓国の大学と相互交流協定を結んでいます。清州大学（韓国）やウラジオストク国立経済サービス大学（ロシア）との間では学生派遣や受入を行っており、2021年にはセントラルクリスチャンカレッジオブカンザス（アメリカ）も協定校に加わりました。それぞれの交流や文化体験を通じて、相互理解を深めていきます。



3 短期語学留学

カッセル大学（ドイツ）の短期語学留学では、観光・産業・再生エネルギーなどのテーマについて英語で学び、発信する力を培います。他にもサザンクロス大学（オーストラリア）、トリニティウエスタン大学（カナダ）、ワーナーパシフィック大学（アメリカ）などの留学先があります。どの留学もホームステイやアクティビティなどを通して、24時間英語に触れて会話力を高めるとともに、現地の文化や暮らしを学びます。



4 留学生サポーター制度・交流会

留学生の日本語学習や生活相談などを行いながら、異文化を相互に学びあうことを目的とする「外国人留学生サポーター制度」を設けています。国際交流センター主催の交流会のほか、サポーター学生の呼びかけにより、自発的に花火大会に同行したり、懇親パーティーを開催したりするなど、充実した活動が行われています。



在学生メッセージ



佐藤 萌結さん
(徳島県出身)

先進的な町ポートランドでSDGsに関するプログラムに参加

オレゴン州ポートランドに約3週間の留学に行きました。今回はSDGsに関するプログラムへの参加でした。町の人々にインタビューする機会もあったのですが、皆さん気さくに話してくださり、コミュニケーション能力の高さとSDGsへの意識の高さを感じました。留学準備に関しては国際交流センターのサポートが受けられたので、大変スムーズでした。卒業後は海外と取引している日本企業に就職したいと考えています。



特別
サイト



SDGs (持続可能な開発目標)

「環境」「経済」「社会」の持続可能性について
SDGsに貢献する人材を育成します

SDGsを達成するためには長期間の継続的な取り組みが必要なため、SDGsに取り組む人材の育成(教育)、ノウハウの提供(研究)などの面で、大学に大きな期待が寄せられています。本学は、基本理念がSDGsの趣旨に一致することから、2018年10月10日、大学として一丸となってSDGsに取り組むことを宣言しました。

教育面では、総合教育科目の環境学概論やSDGs基礎のほか、17すべての目標に関連する授業科目を用意しており、学生の興味に合わせてSDGsを学修することができます。また、SDGsの考え方を地域に普及する活動を行っているサークルや学生団体もあります。

活動紹介



SDGsオンライン講座

「持続可能な社会」の実現を目標に、本学の教育リソースをオンラインの講座として提供しています。高校生をはじめ、学校、ステークホルダーなど多くの人が、持続可能な社会の発展に向けて知識向上を図ることができます。現在、本学公式YouTubeチャンネルで18本のオンライン講座を公開しています。(2023年4月時点)



動画を見る

SDGsカフェ「世界の食糧問題と昆虫食」

これから訪れる食糧問題の解決の一つとして、「昆虫食」をテーマにイベントを開催しました。日本のコンビニエンスストアにおける一日の食品廃棄量は10kgにおよび、食品廃棄量の5%を占めることなどを紹介するとともに、実際に昆虫食の試食を通して昆虫食の課題について話し合いました。まだまだ食糧としての活用にはハードルが高いですが、食料問題を考えるきっかけとなりました。

SDGs連携事業

鳥取商工会議所工業部会と本学の教員・学生が連携しSDGsの取り組みを進めています。2022年度は3社が抱える課題に取り組みました。豆乳製造で排出されるおからの処理の問題、原木椎茸植菌時に使用する発砲スチロールのゴミ問題、SDGsの観点からの新商品づくりなど、企業が直面している問題に取り組むことが、学生の成長を促す貴重な機会となっています。



▲原木しいたけ植菌時に「生分解性素材のフタ」を用いた栽培実験

海洋ごみに関する調査

学生EMS委員会は、河川から海洋へのごみ流入に関する調査を実施しました。鳥取県東部を流れる千代川の特定地点からGPS付きの容器を流し、ごみの滞留箇所の傾向について、川の水位とも関連づけながら、約1か月間にわたり確認しました。委員会では、これまで小学校で「海洋ごみ問題」の出張授業などにも取り組んでおり、今後も自治体や市民とともに海洋ごみ削減の活動に取り組む予定です。



▲GPS付容器を用いた河川から海へのごみ流路特定調査



在学生メッセージ



戸知谷 桃羽さん
(岩手県出身)

SDGsに関連する社会問題に興味。将来は「環境」と「経営」のかけ橋に

もともと環境をはじめ、SDGsに関連する社会問題に興味がありました。「環境」と「経営」という一見相反するイメージがあるかもしれませんが、その両分野のかけ橋になれるコンサルタントが、私の思い描く将来像です。また2年生のときには福祉や介護分野にも興味を持ち、本学のSDGs活動助成金を活用して福祉系のイベントも開催しました。学生生活を充実させるためには何事にも興味を持ち、積極的に面白がるのが大事だと思います。



特別
サイト

